

IPS型就労支援利用者における 就労条件の希望マッチ度と就労期間の関連

○五十嵐百花¹⁾、山口創生¹⁾、佐藤さやか¹⁾、塩澤拓亮¹⁾、松長麻美¹⁾²⁾、小塩靖崇¹⁾、藤井千代¹⁾

1) 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 地域精神保健・法制度研究部

2) 東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 精神保健看護学分野

第17回日本統合失調症学会

筆頭発表者のCOI 開示

演題発表に関連し、開示すべきCOI関係にある
企業等はありません。



IPS (Individual Placement and Support) とは？

- アメリカで開発された**個別就労支援モデル**
- 従来の訓練型就労支援に比べて、
重度精神障害を持つ人の就労率を上げる効果
 - ある期間中に就労した人の割合が、訓練型支援の2.5倍 ¹⁾
- 日本では**約20機関**で実践



JIPSA

日本IPSアソシエーション
IPSマップより

<https://jipsa.jp/>

1) Suijkerbuijk et al. (2017). Interventions for obtaining and maintaining employment in adults with severe mental illness, a network meta-analysis. Cochrane Database of Systematic Reviews, 9, CD011867.

8つの基本原則²⁾

重症度や障害程度に関係なく支援

訓練を経ず、迅速に職探しをする

一般就労を目指す

本人の希望を優先する

支援の期限を定めない

雇用主を積極的に開拓

医療スタッフと連携

社会保障への影響を確認

就労継続の課題

- IPSは従来型支援よりも、**就労期間を延長¹⁾**させるが…
- 短期間で辞めてしまう人も多い
 - 4つの研究において、IPSを利用した参加者の平均就労期間は**1～7か月⁴⁻⁷⁾**
- IPS利用者の離職の主な理由は、仕事への**不満・関心のなさ⁸⁾**



1) Suijkerbuijk et al. (2017).

4) Burns et al. (2007). The effectiveness of supported employment for people with severe mental illness: a randomised controlled trial. *The Lancet*, 370(9593), 1146-1152.

5) Kin Wong et al. (2008). A Randomized Controlled Trial of a Supported Employment Program for Persons With Long-Term Mental Illness in Hong Kong. *Psychiatric Services*, 59(1), 84-90.

6) Latimer et al. (2006). Generalisability of the individual placement and support model of supported employment: results of a Canadian randomised controlled trial. *Br J Psychiatry*, 189(1), 65-73.

7) Tsang et al. (2009). Vocational outcomes of an integrated supported employment program for individuals with persistent and severe mental illness. *J Behav Ther Exp Psychiatry*, 40(2)

8) Mak et al. (2006). Job Termination Among Individuals with Severe Mental Illness Participating in a Supported Employment Program. *Psychiatry*, 69(3), 239-248.

仮説と研究目的

- ・仕事の希望条件と実際の就労がマッチしていれば、より長続きするのではないか？



実際の就労が
【希望とどの程度マッチしていたか】と
【その就労が継続した期間】
の関連を調べた。

調査施設

IPS型就労支援を提供する全国**16機関**

対象者

調査期間中にIPS型就労支援を利用し始めた人

調査期間

利用開始から**2年間**（2017年1月～2019年6月）

評価

利用開始時に、**仕事の希望条件**を聞き取り、
実際の就労とのマッチを判定した（次スライド参照）

就職日と退職日から、**就労期間**を計算した

分析対象

2年間で1回以上就職した**112名**

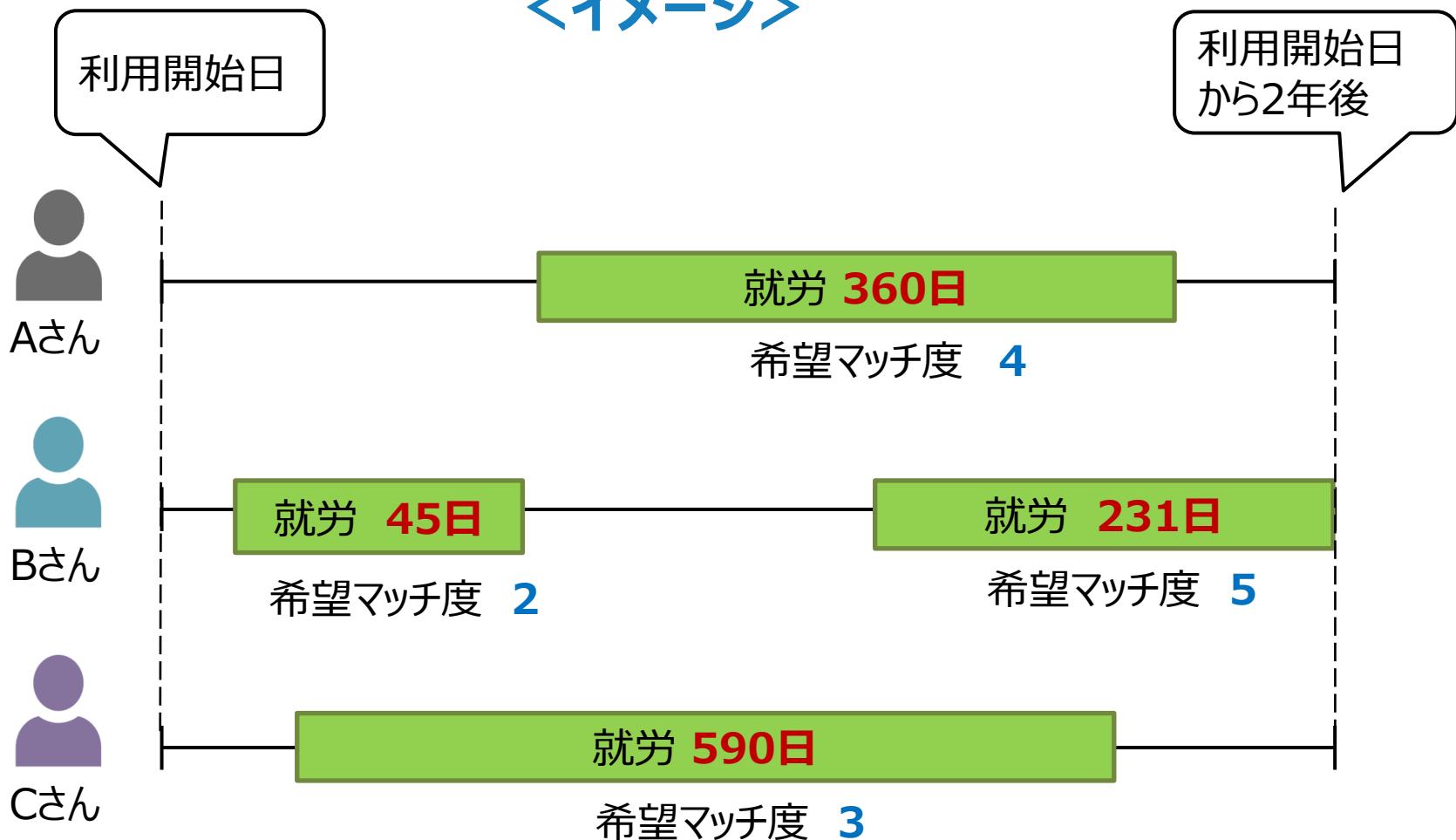
1人が複数回就職した場合を含め、**130回分**の就職を
分析

希望マッチの判定基準



- 1つだけマッチ → 希望マッチ度 **1** 全てマッチ → 希望マッチ度 **5**
- 130回の就職それぞれについて希望マッチ度を算出

<イメージ>

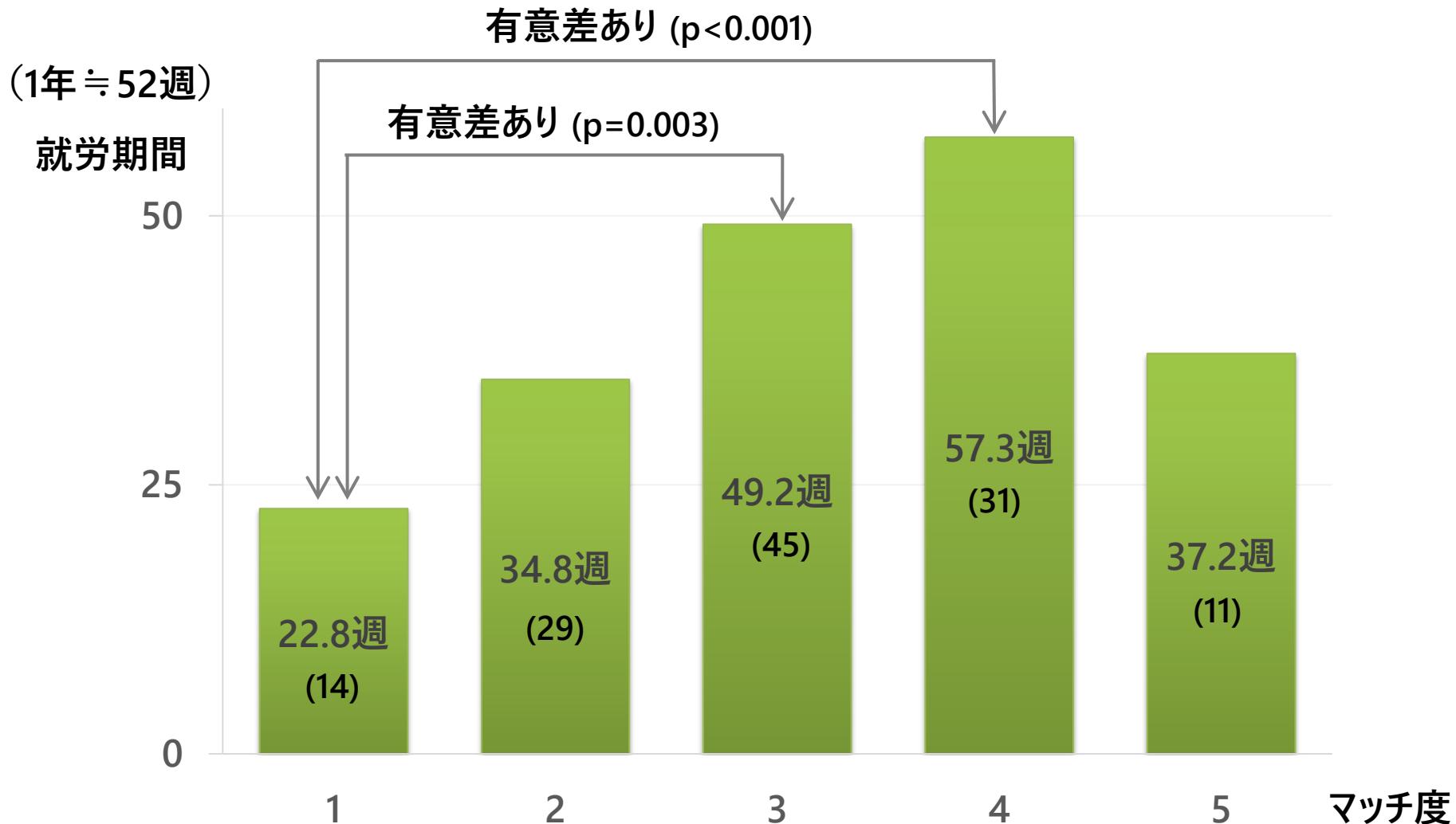


【希望マッチ度】が高いほど 【就労期間】が長いか？

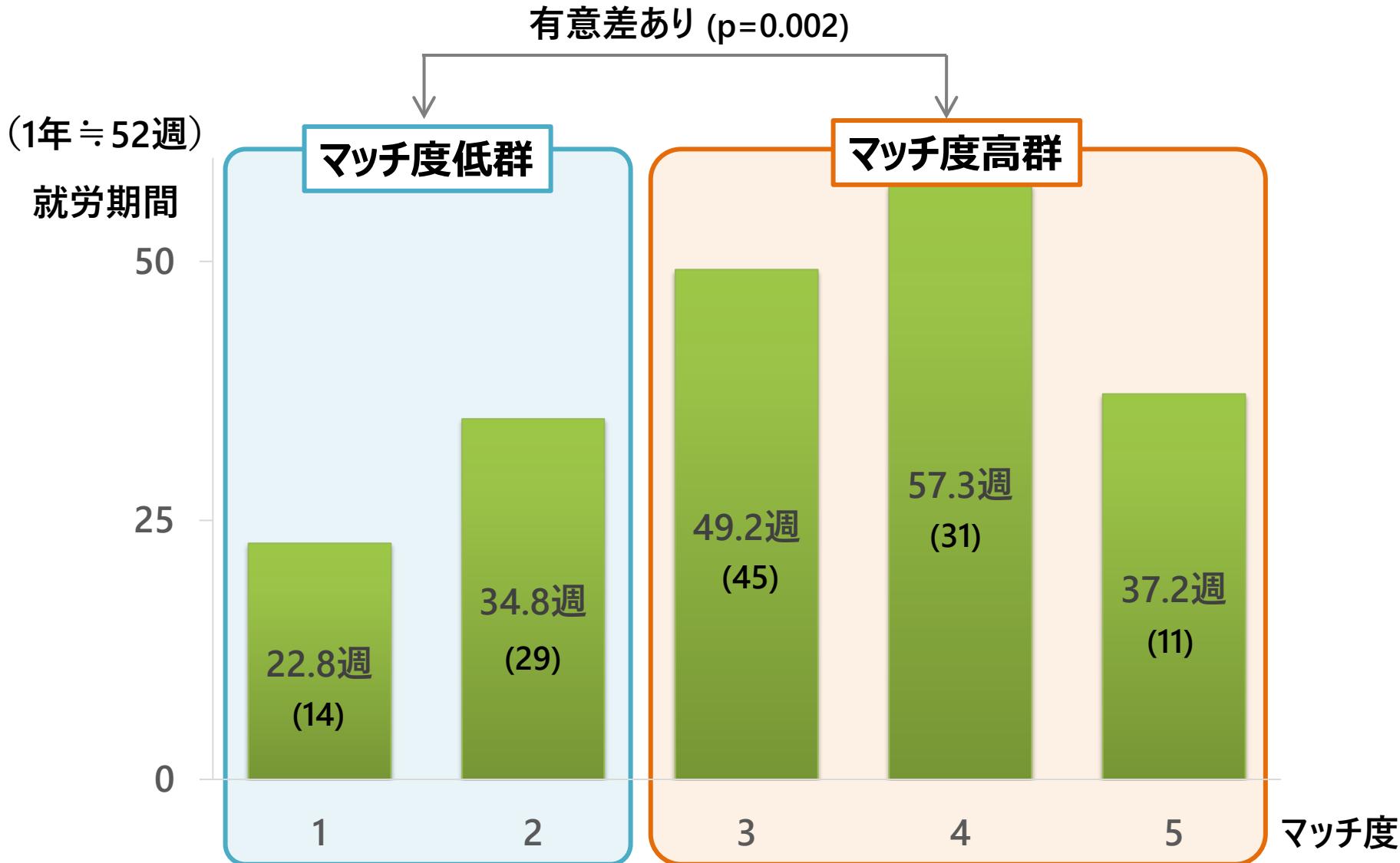
結果：対象者の属性

対象者数 112		
性別 (男性)	75	(67.0%)
年齢	平均 35.2	SD 9.9
診断		
統合失調症	45	(40.2%)
発達障害	26	(23.2%)
うつ病	24	(21.4%)
双極性障害	9	(8.0%)
神経症性障害	6	(5.4%)
知的障害	2	(1.8%)
過去1年の就労経験	46	(41.1%)
過去1年の入院経験	21	(18.8%)

結果：希望マッチ度と就労期間に関連あり



結果：希望マッチ度と就労期間に関連あり

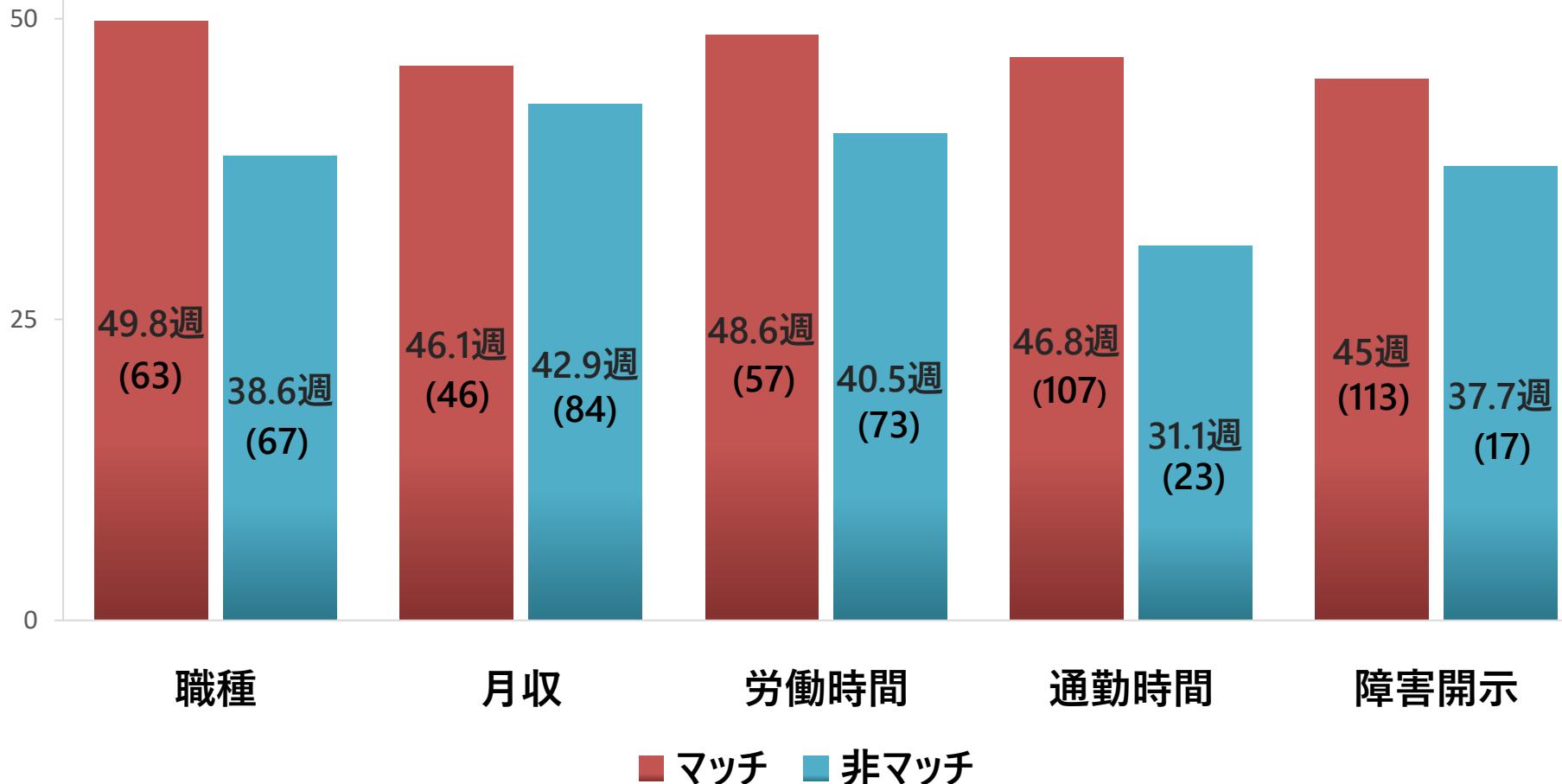


結果：1項目のマッチだけでは、関連は示されず

(1年 ≈ 52週)

マッチ - 非マッチ間にすべて有意差なし

就労期間



- 希望マッチ度が高いほど、**就労が長続きする可能性がある。**
- 利用者の希望を聞き取り、**希望に沿った職探しをすることが推奨される。**



限界・留意点

- 希望マッチの判定基準は研究者が決めた。
- IPS以外の就労支援でも結果が当てはまるかは分からぬ。

ご清聴ありがとうございました

本研究の詳細はこれら

Igarashi, M., Yamaguchi, S., Sato, S., Shiozawa, T., Matsunaga, A., Ojio, Y., & Fujii, C. (2022). Influence of multi-aspect job preference matching on job tenure for people with mental disorders in supported employment programs in Japan. *Psychiatr Rehabil J.*
<https://doi.org/10.1037/prj0000541>

国立精神・神経医療研究センター 2022年10月7日プレスリリース 「就労条件の希望マッチ度が就労期間と関連することを実証－当事者の希望を優先する就労支援の後押しに－」
<https://www.ncnp.go.jp/topics/2022/20221007p-2.html>

ご質問・ご感想などの連絡先

五十嵐百花

